

## 「切り株と格闘する(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

※2019年秋の活動記録です。

さあ、いよいよ切り株との「勝負」である。まずは「シラカバの小物」から。これは、間違いなく「切り株初心者向き」の相手である。



まず切り株の周囲を、スコップで掘り起こす。スコップは丈夫なものが必要だ。「木の柄と金属の先端」というタイプは使えない。土を掘ることも大切なのだが、最終的に重要なのは切り株を持ち上げる作業なのだ。脆弱なスコップでは、柄の部分が間違いなく折れてしまう。今回は先端から持ち手まで、溶接で一体化された、オール金属製のスコップを使った。



樹木の根というのは、ダイコンやゴボウのように「真下」に伸びているのではない。どちらかと言えば、「真横」に伸びている。それで地面を掴んで、どの方向から強風を受けても、倒れにくいように幹を支えているのである。太い根がすべてわかるまで、深く掘る。



「根」といっても、太いものはほとんど「幹」に近い。スコップでは掘り起こせないものは、ノコギリで切断するしかない。生きた根の場合、枝よりも固くものすごく大変だが、死んだ根の場合、簡単に切れる。



半分以上切れ込みを入れて、太い根の下にスコップを入れて上にこじくと、パキッと折れることが多い。この切り株の場合、太い根は5本だった。南側の根が一番太く長かった。



主だった太い根を取り去ると、切り株全体が少しグラグラ動くようになる。こうなったら、切り株の下の土をできるだけ取り去って、少しずつ「支え」をなくしていく。さあ、もう一息だ！